

2025年4月 東京地区百貨店売上高概況

2025年5月23日

I. 概況

1. 売上高総額	1, 267億円余
2. 前年同月比（増減率）	－6.3%（3か月連続マイナス）
3. 店頭・非店頭の増減	店頭－6.1%（92.6%）：非店頭－8.3%（7.4%） （ ）内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 22店（本年3月対比±0店）（前年同月比：±0店）
5. 総店舗面積	668,299㎡（前年同月比：－10.0%）
6. 総従業員数	12,514人（前年同月比：－6.1%）
7. 3か月移動平均値	9-11月 0.5%、10-12月 1.1%、11-1月 3.1%、 12-2月 1.7%、1-3月 －0.4%、2-4月 －4.3%

【参考】2024年4月の売上高増減率は10.8%

【特徴】

4月の東京地区は、売上高（6.3%減）、入店客数（8.3%減）共に前年を下回った。前年の免税売上高伸の反動減が大きく影響し、高付加価値商材の売上が減少した他、不安定な天候要因により、ファッション関連が苦戦した。具体的なアイテムの動向は以下の通り。

衣料品（5.6%減）：月初は低気温や不安定な天候から春物商材の動きが鈍かったが、中旬以降は気温上昇に伴い、Tシャツやカットソー等の初夏物が稼働。ビジネス関連は仕事着のカジュアル化が進み、スーツ、ジャケットは紳士・婦人共に苦戦。

身のまわり品（15.3%減）：為替影響や訪日客の購買傾向の変化もあり、ラグジュアリーブランドのバッグ、靴等が低調で二桁減。これまで好調だったスーツケースも免税不調で売上減。アクセサリは先月に続き好調に推移。

雑貨（4.0%減）：化粧品は一部ブランドの価格改訂前の駆け込み需要もあり、5.4%増と好調。インバウンドの購買傾向もライン使いが浸透し高単価で推移。美術・宝飾・貴金属は、一部価格改訂前の駆け込みが見られた他、時計は資産性商材への関心の高さもあり堅調。

食料品（0.9%減）：継続的な価格高騰影響で0.9%減と前年に僅かに届かなかったが、先月より3.5ポイント改善。特に各社企画の物産展や外国展等の食品催事が好調だったほか、自家・ギフト共に和洋酒の需要増により、その他食料品は1.6%増と13か月ぶりにプラス転換。菓子はGWの手土産需要もあり和洋菓子共に堅調に推移し、先月より3.8ポイント改善。

5月足元動向：前年高伸した免税売上の反動影響から前年比10.2%減（5/18時点）で推移。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日（前年同月比 ±0.0日）
- (2) 入店客数増減（回答店舗数で見る傾向値／前年同月比／有効回答数17店舗）
①増加した：10店、②変化なし：3店、③減少した：4店
- (3) 4月歳時記（春物商戦、GW）の売上（同上／有効回答数10店舗）
①増加した：1店、②変化なし：6店、③減少した：3店

東京地区百貨店 売上高速報 2025年4月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	126,750,240	100.0	-6.3
紳士服・洋品	9,717,058	7.7	-8.4
婦人服・洋品	21,608,623	17.0	-4.4
子供服・洋品	2,989,871	2.4	-2.9
その他衣料品	1,295,877	1.0	-9.4
衣 料 品	35,611,429	28.1	-5.6
身のまわり品	23,284,252	18.4	-15.3
化粧品	12,386,382	9.8	5.4
美術・宝飾・貴金属	15,313,281	12.1	-7.0
その他雑貨	4,035,333	3.2	-17.0
雑 貨	31,734,996	25.0	-4.0
家 具	1,237,029	1.0	-13.2
家 電	1,159,738	0.9	1.0
その他家庭用品	2,768,175	2.2	-4.9
家 庭 用 品	5,164,942	4.1	-5.8
生 鮮 食 品	2,927,750	2.3	-1.7
菓 子	7,478,192	5.9	-1.8
惣 菜	5,742,479	4.5	-2.9
その他食料品	8,254,483	6.5	1.6
食 料 品	24,402,904	19.3	-0.9
食 堂 喫 茶	2,082,848	1.6	-12.8
サ ー ビ ス	1,917,467	1.5	-5.9
そ の 他	2,551,402	2.0	5.9

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

		対前年増減(-)率(%)
商 品 券	1,256,458 千円	-5.0
従 業 員 数	12,514 人	-6.1
店 舗 面 積	668,299 m ²	-10.0
営 業 日 数	30.0 日	前年 30.0 日

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は全てマイナスとなった。
その他の品目は、化粧品が44か月連続、その他食料品が13か月ぶりにプラスとなったが、美術・宝飾・貴金属が3か月連続、菓子、惣菜が10か月連続でマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	-6.3	—	3か月連続マイナス
紳士服・洋品	-8.4	-0.7	3か月連続マイナス
婦人服・洋品	-4.4	-0.7	3か月連続マイナス
子供服・洋品	-2.9	-0.1	3か月連続マイナス
その他衣料品	-9.4	-0.1	5か月連続マイナス
衣料品	-5.6	-1.6	3か月連続マイナス
身のまわり品	-15.3	-3.1	3か月連続マイナス
化粧品	5.4	0.5	44か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-7.0	-0.8	3か月連続マイナス*
その他雑貨	-17.0	-0.6	8か月連続マイナス*
雑貨	-4.0	-1.0	2か月連続マイナス
家具	-13.2	-0.1	2か月ぶりマイナス
家電	1.0	0.0	5か月連続プラス
その他家庭用品	-4.9	-0.1	6か月ぶりマイナス
家庭用品	-5.8	-0.2	3か月ぶりマイナス
生鮮食品	-1.7	-0.0	13か月連続マイナス*
菓子	-1.8	-0.1	10か月連続マイナス*
惣菜	-2.9	-0.1	10か月連続マイナス*
その他食料品	1.6	0.1	13か月ぶりプラス*
食料品	-0.9	-0.2	10か月連続マイナス
食堂喫茶	-12.8	-0.2	10か月連続マイナス
サービス	-5.9	-0.1	4か月ぶりマイナス
その他	5.9	0.1	5か月連続プラス
商品券	-5.0	-0.0	14か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・青柳 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>